

北米教育機関の無香料ポリシー実例（17例）

ポリシー No.	A. シュタインマン博士の「無香料ポリシーと室内環境に関する10の質問」 別表Aの無香料ポリシー例より、教育機関関連を抜粋し翻訳 無香料ポリシー実行者/対象者/内容/場所/時期/理由/運用方法/特記すべきこと
1	<p>公共の場>スタンフォード大学コーラスグループ、米国、カリフォルニア州、スタンフォード</p> <p>無香料ポリシーURL (2018年8月19日アクセス) https://web.stanford.edu/group/SymCh/nofragrance.html; https://web.stanford.edu/group/SymCh/MemberPage.html</p> <p>対象者：コーラスグループ</p> <p>内容：「コーラスグループが無香料ポリシーを持っているのは、自分たちが大きなグループであり、中には香料に敏感だったりアレルギーのあるメンバーがいることから。リハーサルや本番に香料をつけて来ないことは重要。明確なガイドラインがある：香水、コロン、香り付きのアフターシェーブローション他、いかなる香りのついた製品をつけないこと。香料が含まれるヘアケア製品、ローション、消臭剤をつけないこと。」</p> <p>主な場所：公演は様々な場所で行われる。リハーサルはサンタクララ郡のスタンフォード大ブラウン音楽ビルで行われる（450 Serra Mall, Stanford, California 94305 USA） 詳細：ポリシーはコーラスグループが集まるときは常に適用される。特にドレスリハーサルや公演時。</p> <p>時期：記載なし</p> <p>理由：「コーラスグループの何人かのメンバーが特に香水やヘアスプレーなどの香料入り製品に敏感なので。また狭い空間で歌うので、できるだけ良いクオリティの空気呼吸することは全員のメリットになる。」</p> <p>運用方法：自主的な順守。「自分たちが大きなグループであり、中には香料に敏感だったりアレルギーのあるメンバーがいることから、メンバーがリハーサルや本番に香料をつけて来ないことは重要。」</p> <p>特記すべきこと：コーラスグループのWEBサイトには「ポリシーを守るためのヒント」、「無香料製品ガイド」がある。ポリシーを守るためのヒントには、無香料と無香料製品の違いについての説明がある。「無香料製品ガイド」には沢山の製品が記載されている。</p>

2

教育機関>チャータースクール*>チャレンジ チャータースクール校 米国、アリゾナ州、グランデール
*税補助を受けるが従来の公的教育規制を受けない学校。外郭団体の協力を得て運営

無香料ポリシーURL (2018年8月19日アクセス)

<http://www.challengecharterschool.net/?s=fragrance>

対象者：すべての職員、利用者

内容：「全ての香水、コロン、香料入り製品（ヘアケア製品、洗浄剤、ローション、消臭剤）を学校の建物内で使用することを禁止する。この規則の発行を入り口のドア外側に掲示する。香料入りの製品を使用している場合、誰であっても学校の受け付けエリアより中に入ることを禁ずる。香料、タバコ、その他化学物質の悪臭がしていることが察知された場合にはその個人はフロントオフィスエリアに送られ、状況を改善するための適当な措置を受ける。生徒と親が香料使用によって学校に呼び出された場合には、香料入りの製品は生徒の体から取り除かなければならない。その生徒は香料または化学物質臭が取り除かれるまでは、教室または教育の場に戻ることはできない。」

主な場所：米国アリゾナ州のChallenge Charter School校 (5801 W. Greenbriar Dr., Glendale, Arizona 85308 USA)

「チャレンジチャータースクールは幼年部から6年生までの600人以上の生徒が通う公立学校」

時期：記載なし

理由：「これは殺虫剤その他の汚染物質フリーの健康的な教育環境を提供するためのチャレンジチャータースクールのポリシー。化学物質と化学物質を多用した物質は、安全だと証明がされるまで有毒であると認識され、学校の敷地で使用することは許可されない。バクテリアやカビなどの生物的汚染物質は有害なもののみならず、排除される。学校内の空気のカオリティと学校内、周辺の環境の他の要素は全ての人員の健康、能力、生産性に影響する。子供はより環境中の有害物質に影響を受けやすく、また生化学的な性質は個人に固有のものである。そこで、環境衛生ポリシーは、全ての施設利用者にとって健康的で、全ての生徒が学習するための必要を満たした最適な学校環境のために定めた規定を確実に遂行できるように、インクルーシブでなければならない。」

運用方法：義務。順守を強制される。「香料入りの製品を使用している場合、誰であっても学校の受け付けエリアより中に入ることを禁ずる。香料、タバコ、その他化学物質の悪臭がしていることが察知された場合にはその個人はフロントオフィスエリアに送られ、状況を改善するための適当な措置を受ける。生徒と親が香料使用によって学校に呼び出された場合には、香料入りの製品は生徒の体から取り除かなければならない。その生徒は香料または化学物質臭が取り除かれるまでは、教室または教育の場に戻ることはできない。」

特記すべきこと：チャレンジチャータースクールのポリシー：「洗浄剤、トイレトペーパー、ティッシュは無香料でなければならない。芳香剤、香料入り消臭剤の使用を禁ずる…すべての学習、美術教材は無害で無香料でなければならない。香料付きのシール、油性マーカーその他の溶剤を使った製品は学校内への持ち込み、使用不可」

3	<p>教育機関>チャータースクール>ライオンズゲートアカデミー*校 米国、ミネソタ州、ミネソタ *アカデミーは専門学校、私立の高校や塾を指す</p> <p>無香料ポリシーURL (2018年8月17日アクセス) http://lionsgate.academy/home/school-board/policies/</p> <p>対象者：学生、従業員、訪問者</p> <p>内容：詳細：「ポリシーの概要：我が校の生徒、従業員、訪問者が様々な香料入り製品に敏感であったりアレルギーがある可能性を考慮し、ライオンズゲートアカデミーは無香料の学区とする。従業員、訪問者、ボランティアと学生は、つけている事が他人にわかるような香料入りパーソナルケア製品（香水、コロン、ローション、パウダーその他同様の製品）を使用してはならない。その他の香料入り製品（香料入りキャンドル、ポプリ、その他同様の製品）もまた学校内での使用は許可されない。」</p> <p>主な場所：米国ミネソタ州ヘニピン郡のライオンズゲートアカデミー校 (5605 Green Circle Drive, Minnetonka, Minnesota 55343 USA) 「ライオンズゲートアカデミー校は公立のチャータースクールで、全ての能力の学生にオープンな中学、高校課程と、18~21歳が対象のトランジション課程がある。ライオンズゲート校の教育課程は自閉症スペクトラム、その他の学習の特異性を持つ学生の個別の学習ニーズに対応するため、インクルーシブにデザインされている。」</p> <p>時期：最初の採択日：2013年12月17日</p> <p>理由：学生、従業員、訪問者に安全で快適な環境を提供するため。</p> <p>運用方法：順守が強制される。「従業員、訪問者、ボランティアと学生は、つけている事が他人にわかるような香料入りパーソナルケア製品（香水、コロン、ローション、パウダーその他同様の製品）を使用してはならない。その他の香料入り製品（香料入りキャンドル、ポプリ、その他同様の製品）もまた学校内での使用は許可されない。」</p>
4	<p>教育機関>単科大学>コミュニティカレッジ（地域短期大学）>看護課程>バトンルーージュコミュニティカレッジ 米国、ルイジアナ州、バトンルーージュ</p> <p>無香料ポリシーURL (2018年8月17日アクセス) http://www.mybrcc.edu/academics/nursing_and_allied_health/asnursing.php</p> <p>対象者：学生</p> <p>内容：「香水、コロン、アフターシェーブローション他の香料を使用しないこと。無香料の消臭剤、口腔衛生用品の使用が義務付けられる。」</p> <p>主な場所：米国ルイジアナ州バトンルーージュのバトンルーージュコミュニティカレッジ (201 Community College Drive, Baton Rouge, Louisiana 70806 USA. East Baton Rouge County.)</p> <p>時期：ポリシーは2017年、2018年にコミュニティカレッジが発行した看護学生ハンドブックに記載</p> <p>理由：記述なし</p> <p>運用方法：記述なし</p>

5

教育機関>単科大学>州立大学>エバーグリーン州立大学 米国、ワシントン州、オリンピア

無香料ポリシーURL (2018年8月17日アクセス)

<https://www.evergreen.edu/conference/policies>

対象者：地域のメンバーと訪問者

内容：「エアクオリティ：エバーグリーン州立大学は所有地内、講義において汚染、香料、煙フリーの環境を支持する。喫煙はすべての建物で禁止。キャンパスで使用する製品は最低限有毒でないものであること。学校関係者、訪問者は香料入りの製品を使わないよう求められる。」

主な場所：米国ワシントン州サーストン郡 エバーグリーン州立大学 (2700 Evergreen Parkway NW, Olympia, Washington 98505 USA)

詳細：ポリシーは大学の全ての所有地、全ての講義に適用される。

時期：記述なし

理由：「エアクオリティ：エバーグリーン州立大学は所有地内、講義において汚染、香料、煙フリーの環境を支持する。」

運用方法：自主的な順守。「学校関係者、訪問者は香料入りの製品を使わないよう求められる。」

教育機関>小学校・中学校>ディエリンジャー学区 米国、ワシントン州、タップス

無香料ポリシーURL (2018年8月17日アクセス)

<http://www.dieringer.wednet.edu/workspaces/one.aspx?objectid=562797&contextId=562767>

対象者：生徒、関係者、スタッフ

内容：「無香料ポリシー：ディエリンジャー学区は生徒、関係者およびスタッフの安全と快適さを確かなものにするため、香料をコントロールした環境を勧める。我々は生徒、関係者、スタッフのために健康的な環境を支持する。我々は環境中の強い匂いや香料に曝露することが不快さ、またセンシティブな個人にとって直接的な影響を及ぼすおそれがあることを認識している。

主な場所：ディエリンジャー学区 米国ワシントン州タップス (1320 178th Ave E., Lake Tapps, Washington 98391 USA)

詳細：「学区の3つの学校、レイクタップス小学校、ディエリンジャーハイツ小学区、ノースタップス中学校は幼稚園から8年生(中二)までの教育を行なっている」

時期：2011年3月採択

理由：「ディエリンジャー学区は生徒、関係者およびスタッフの安全と快適さを確かなものにするため、香料をコントロールした環境を勧める。我々は生徒、関係者、スタッフのために健康的な環境を支持する。我々は環境中の強い匂いや香料に曝露することが不快さ、またセンシティブな個人にとって直接的な影響を及ぼすおそれがあることを認識している。

運用方法：自主的な順守：「全員の健康と快適さのために、ディエリンジャー学区は従業員の香料、香料入り製品の使用を止めさせる。同様に、生徒と関係者は学校での香料、香料入り製品の使用をしないよう求められる。香料の定義は香水、コロソ、アフターシェーブ用品その他のパーソナルケア製品を含む他人に使用していることがわかるような強い香りを生じるすべての製品とする。」「香気、その他の臭気を生じる製品が職場で使用されていることに憂慮がある従業員は、問題について上司に報告しなければならない。」

特記すべきこと：ディエリンジャー学区のポリシーは、「ディエリンジャー学区は全ての学校と職場に於いて無香料の清掃・メンテナンス用品を使用するためのあらゆる努力をする。従業員は教室、職場また共有スペースに於いて香料入りのオイル、芳香剤を使用してはならない。トイレは無香料とする。従業員はディエリンジャー学区の職場内のトイレで香料入りのスプレー、洗剤、ローションを置いてはならない。」

7 教育機関>小学校・中学校>アングロフーンサウス学区 カナダ ニューブランズウィック州、セントジョン

無香料ポリシーURL (2018年8月17日アクセス)

<http://web1.nbed.nb.ca/sites/ASD-S/DistrictPolicies/Forms/AllItems.aspx?RootFolder=%2Fsites%2FASD%2DS%2FDistrictPolicies%2F200%20%2D%20Human%20Resources&FolderCTID=0x0120000AAF28F7A8B2FC4F82F37488B14177D8&View={B5617C43-A1E9-4AA4-80C4-5919BFC4C35D}&InitialTabId=Ribbon%2EDocument&VisibilityContext=WSSTabPersistence>

対象者：アングロフーンサウス学区の全ての人員

内容：「我々の学校は香料及びピーナッツ・ナッツフリーの施設である。」 「ポリシー NO. ASD-S-235：アレルギー - 香料入り製品とピーナッツ。ポリシーのステートメント：アングロフーンサウス学区は生徒とスタッフの健康を尊重し、アレルギーの少ない学習・労働環境を提供することに責任を持つ。完全にアレルギーを除去することは不可能だと認識するが、可能であるかぎり曝露のリスクを少なくするための情報提供と啓蒙、回避の処置を導入する。これらの処置は全てのアングロフーンサウス学区の学校、車両、学区/センターのオフィスの全ての人員に適用される。」

主な場所：カナダ ニューブランズウィック州 セントジョン アングロフーン学区 (South, 490 Woodward Avenue, Saint John, New Brunswick E2K 5N3 Canada)

詳細：ポリシーは「アングロフーンサウス学区の学校、車両、学区/センターのオフィス全ての人員に適用される」

この学区には幼稚園から高校3年生までをカバーする70の小学校、中学校、高等学校がある。

時期：2015年11月採択。2016年8月修正

理由：「アングロフーンサウス学区は生徒とスタッフの健康を尊重し、アレルギーの少ない学習・労働環境を提供することに責任を持つ。」

運用方法：自主的な順守。「手順：管理職、校長、マネージャーは 1. スタッフ、学生と両親に香料やピーナッツは敏感な人たちに健康への影響があることを啓蒙しなければならない。 2. スタッフと学生に学校、学校の車両、オフィスでピーナッツ及び香料の使用を避けるように要求しなければならない。 3. 職場でのアレルギーに関する問題を解決するよう努めなければならない。その問題が健康に不安を持つ当人にとって納得いく形で解決されない場合には、直ちに直属の上司に報告しなければならない。 4. 目立つ場所に「無香料」及び「ピーナッツフリー」の掲示物を確実に掲示しなければならない。 5. 乱用のパターンには確実に適切な対処をしなければならない。

特記すべきこと：アングロフーンサウス学区のポリシーの記述：「手順：学区は 1. 可能な場合にはいつでも無香料の清掃用品を購入しなければならない。 2. 学区内の施設で使用される清掃用品は安全で効果的に使用されなければならない。 3. 学区が提供する適切な掲示物を『香料入り製品とピーナッツに関するポリシー』の全てを知らせるために目立つ場所に必ず掲示しなければならない。バスにも掲示すること。」

教育機関>小学・中学・高等学校>ジェファーソンシティ公立学校区(JCPS) 米国、ミズーリ州、ジェファーソンシティ

無香料ポリシーURL (2018年8月19日アクセス)

<https://www.jcschools.us/Page/9682>

対象者：ジェファーソンシティ公立学校区の全てのイベントに参加する全ての客

内容：詳細：「ジェファーソンシティ公立学校区の生徒と両親、スタッフには時により香料によって深刻な健康被害を受ける人たちがいます。それらの人たちがジェファーソンシティ公立学校区での経験を楽しめるよう、私たちはJCPSのイベントに参加するすべてのお客様に香水、アフターシェーブ、香料入りのローションやヘアプロダクト、その他同様の製品を使用せず、できるだけ無香料であるようお願いいたします。」

主な場所：米国ミズーリ州、コール郡とキャラウエイ郡にまたがる ジェファーソンシティ ジェファーソンシティ学校区(315 East Dunklin Street, Jefferson City, Missouri 65101 USA)

詳細：学校区には11の小学校、2つの中学校、9年生（中学3年）センター、高等学校、インストラクショナルリソースセンター、及びニコラスキャリアセンターがある。」

時期：記述なし

理由：「香料入りの製品は慢性疾患をもつ人にさらなる病態とそれに伴う医療費の負担をの原因となる恐れがあります。それらの疾患には喘息、アレルギー、副鼻腔の問題、鼻炎、片頭痛などが含まれます。ジェファーソンシティ公立学校区の生徒と両親、スタッフには時により香料によって深刻な健康被害を受ける人たちがいます。それらの人たちがジェファーソンシティ公立学校区での経験を楽しめるよう、私たちはJCPSのイベントに参加するすべてのお客様に香水、アフターシェーブ、香料入りのローションやヘアプロダクト、その他同様の製品を使用せず、できるだけ無香料であるようお願いいたします。」

運用方法：自主的な順守。「私たちはJCPSのイベントに参加するすべてのお客様に香水、アフターシェーブ、香料入りのローションやヘアプロダクト、その他同様の製品を使用せず、できるだけ無香料であるようお願いいたします。」

特記すべきこと：ジェファーソンシティ公立学校区のポリシーの記述：ジェファーソンシティ公立学校区の学校を訪れる方は『無香料ポリシー』の掲示を頻繁に目にするでしょう。私たちは、掲示とメディアへの発表によってお客様にこの学校区が無香料であることを思い出していただくようにしています。」

9

教育機関>就学前教育（幼稚園）>セントパイアス エックスチルドレンセンター 米国、オハイオ州、レイノルズバーグ

無香料ポリシーURL (2018年8月17日アクセス)

<http://spxchildrenscenter.com/fragrance-free-policy/>

対象者：両親、送迎ヘルパー、生徒。教員も含むことが暗示されている

内容：「新無香料ポリシー！：セントパイアスエックスチルドレンセンターは、無香料の学校です。私たちは両親、送迎をする人に学校を訪問、生徒を送迎する際に香水、コロソ、パウダー他の香料をつけないようお願いいたします。これらの香料に使用される化学物質の多くは重い喘息やアレルギーを持つ生徒、教員に健康被害の危険をもたらします。喘息発作、しつこい咳などの例があります。香料の中には数日間センターに残香するものがあり、教員や生徒に影響を与え続けます。生徒はこのような製品、アフターシェーブやコロソ、香水、またバス用品、ボディローションを使ってはいけません。生徒のカバンに手の除菌ローション（ハンドジェル）を入れることは許可されません。」

主な場所：米国 オハイオ州 フランクリン郡 レイノルズバーグ セントパイアスエックスチルドレンセンター (1067 Waggoner Rd., Reynoldsburg, Ohio 43068 USA)

時期：記述なし

理由：「これらの香料に使用される化学物質の多くは重い喘息やアレルギーを持つ生徒、教員に健康被害の危険をもたらします。喘息発作、しつこい咳などの例があります。香料の中には数日間センターに残香するものがあり、教員や生徒に影響を与え続けます。」

運用方法：自主的な順守。「私たちは両親、送迎をする人に学校を訪問、生徒を送迎する際に香水、コロソ、パウダー他の香料をつけないようお願いいたします。」「生徒はこのような製品、アフターシェーブやコロソ、香水、またバス用品、ボディローションを使ってはいけません。生徒のカバンに手の除菌ローション（ハンドジェル）を入れることは許可されません。」

10

教育機関>大学>カナダメノナイト大学(CMU) カナダ、マニトバ州、ウィニペグ

無香料ポリシーURL (2018年8月17日アクセス)

<https://www.cmu.ca/students.php?s=studentlife&p=scentfree>

対象者：学生、スタッフ、訪問者

内容：詳細：「無香料ポリシー：喘息、アレルギー及び重度の環境・化学物質への過敏さを持つ個人をかんがみ、CMUは無香料のキャンパスを目指しています。学生、スタッフ及びゲストは、キャンパスで香料また香料入りのパーソナルケア製品の使用を控えていただくようお願いします。香料には香水、コロソ、アフターシェーブ、香料入りのヘアプロダクトが含まれます。ご協力をよろしくお願いします。」

主な場所：カナダ マニトバ郡 カナダメノナイト大学 (500 Shaftesbury Boulevard, Winnipeg, Manitoba R3P 2N2 Canada. Province of Manitoba.)

時期：記述なし

理由：「無香料ポリシー：喘息、アレルギー及び重度の環境・化学物質への過敏さを持つ個人をかんがみ、CMUは無香料のキャンパスを目指しています。」

運用方法：自主的な順守。「ご協力をよろしくお願いします。」

特記すべきこと：CMUの無香料ポリシーには2つの内部リンクが添えられている：https://www.cmu.ca/students/studentlife/scentfree_faq

(1)「無香料FAQ」11種類の問題、3つの例が掲載されている。「香料に影響を受ける人に被害を与えないためにはどうしたらいいか?」、「MCS(化学物質過敏症)とは何か?」など

(2)「無香料製品リスト」にはニキビ薬、ボディウォッシュ、クリーム、デオドラント、ジェル、ヘアスプレー、ローション、サンスクリーンなど18のカテゴリーに分類された102の有名ブランドの製品が掲載。

11

教育機関>大学>セントメアリーズ大学 カナダ、ノバ・スコシア州 ハリファックス

無香料ポリシーURL (2018年8月17日アクセス)

<http://www.smu.ca/about/ohs-scent-awareness.html>

対象者：影響を受ける全ての人という意味合い

内容：「セントメアリーズ大学は、無香料の環境を奨励する。従業員と学生の健康に対する懸念がこの新たな取り組みの主な理由である。空気は私たち全員が共有しているので、無香料のキャンパス環境を目指すためには教室、オフィス、廊下、どこにいる時であっても、全ての人々の理解と協力が必要である。」

主な場所：カナダ ノバ・スコシア州 ハリファックス セントメアリーズ大学(923 Robie Street, Halifax, Nova Scotia B3H 3C3 Canada)

時期：記述なし

理由：「従業員と学生の健康に対する懸念がこの新たな取り組みの主な理由である。」

運用方法：自主的な順守：「人に無香料のパーソナルケア製品を使うことを求めることは、最初は私的で個人の問題に触れることのように思われるかもしれない。しかしそれらの製品の香料が他人の健康と福利厚生影響を与える時、それは単なる個人的な問題の範疇を超える。この啓蒙活動は、人々の好みを批判したり、個別の人々をターゲットにしたものではない。正確に言えば、現実に存在する人々への実害を防ぐためのものである。」

特記すべきこと：セントメアリーズ大学のWEBサイトには3つの内部リンクがある：

(1)「香料についてのFAQ」は12の問題が掲載されており、多くはカナダメノナイト大学の「無香料FAQ」と類似している。<https://www.smu.ca/about/scent-awareness-faqs.html> (2)「香料問題をどう扱うか」は「従業員と管理者」、「教授や講師と教務補助」、「学生」、「セントメアリーズ大学のコミュニティメンバー全員」を対象に書かれている。<https://www.smu.ca/about/handling-scent-situations.html> (3) 香料啓蒙情報のリンク集 <https://www.smu.ca/about/ohs-scent-awareness.html>

12

教育機関>大学>大学建物>カリフォルニア大学 ミッションホール 米国、カリフォルニア州、サンフランシスコ

無香料ポリシーURL (2018年8月17日アクセス)

<https://missionhall.ucsf.edu/block>

<https://missionhall.ucsf.edu/working-mission-hall>

対象者：影響を受ける全ての人という意味合い

内容：「ミッションホールで仕事をする際に：香料、コロン、その他香料入りの製品の使用、生花の持ち込みは控えてください。同僚がアレルギーを持っているかもしれないことを覚えていてください！」「無香料ガイドライン：6階フロアーミッションホール：化学物質にアレルギー、敏感さを持つ人たちのために、香料入りのいかなる製品も使用しない、身に付けないことを提案します。そのような製品には、アフターシェーブ、香水、コロン、ハンド・ボディローション、ヘアケア製品、エッセンシャルオイル、マニキュア、香料入りワイプ、芳香剤、香料入りの洗濯用品を使った衣類などがあります。」

主な場所：米国 カリフォルニア州 サンフランシスコ郡 カリフォルニア大学サンフランシスコ校 グローバルヘルス&クリニカルサイエンスビル ミッションホール (550 16th Street, San Francisco, California 94158 USA)

時期：ミッションホールビルは2014年10月に入居。最初のポリシーは少なくとも2015年の9月29日までに作成。

理由：ビルディング：「同僚がアレルギーを持っているかもしれないことを覚えていてください！」6階フロア：「化学物質にアレルギー、敏感さを持つ人たちのためにー」

運用方法：「ビルディング：香料、コロン、その他香料入りの製品の使用、生花の持ち込みは控えてください。」6階フロア：

「香料入りのいかなる製品も身につけない、使わないようにお願いします…労働環境をより良くするための努力にご理解、ご協力をお願いします！」

13

教育機関>大学>キャリアセンター>米国、カリフォルニア州、サンタクルーズ、カリフォルニア大学

無香料ポリシーURL (2018年8月17日アクセス)

<https://careers.ucsc.edu/student/coaching/index.html>

対象者：スタッフ及び学生

内容：「無香料ポリシー：USCSキャリアセンターは、無香料環境を推進することによってスタッフと学生の安全と快適さを確かなものにする努力をします。訪問時に以下の様な製品を身に付け不要お願いいたします：コロン、香水、アフターシェーブ、ボディスプレーまた類似の製品。」

主な場所：米国 カリフォルニア州 サンタクルーズ郡 UCサンタクルーズキャリアセンター (1156 High Street, Santa Cruz, California 95064 USA)

時期：記述なし

理由：「無香料環境を推進することによってスタッフと学生の安全と快適さを確かなものにする努力をします。」

運用方法：自主的な順守：「訪問時に以下の様な製品を身に付け不要お願いいたします：コロン、香水、アフターシェーブ、ボディスプレーまた類似の製品。科学物資に敏感な職員及び学生が感謝しております。」

14

教育機関>大学>学部>カナダ、ニューファンドランド/ラブラドール州 メモリアルユニバーシティオブ
ニューファウンドランド (大学) 医学部(FoM)

無香料ポリシーURL (2018年8月17日アクセス)

<http://www.med.mun.ca/Medicine/Faculty/Staff/Administrative-Services/Health-and-Safety/Scent-Free-Program.aspx>

対象者：この計画は、FoMの所有地で勤務、または訪問するすべての教授・教員、スタッフ、学生に適用される。

内容：「無香料プログラム(計画)：医学部(FoM)の無香料プログラムは、施設保安全管理(担当部署)と職場安全衛生(担当部署)が、教員、スタッフ、学生と訪問者に医学部の全ての施設は無香料であることを知らせるために共同で行う。医学部の施設での香料入り製品の使用は避けなければならない。無香料プログラムは施設が休業している場合も含み、常に適用される。」

主な場所：カナダ ニューファウンドランド・ラブラドール州 セントジョンズ メモリアルユニバーシティ
オブニューファウンドランド大学 医学部(St. John's, Newfoundland A1C 5S7 Canada)

詳細：「医学部は285名のフルタイムの臨床医及び科学者、またその他に多数の指導教官を含む非常勤講師を有する。それに加え、おおよそ300名の一般教養課程をサポートするメンバー及びサポートユニットを有する。」

時期：「無香料プログラムポリシーの創案文書は2015年11月25日付」

理由：「香料入り製品への曝露は人の健康に悪影響を及ぼすおそれがある。」「医学部は香料入り製品への曝露によって深刻な健康問題が生じることを認識したいと願う。教員、スタッフ、学生及び訪問者に安全で健康的で生産性の高い仕事ができる環境を提供するため、医学部の施設は全て無香料とする。」

運用方法：自主的な順守：「医学部の施設で香料入り製品の使用を控えること。」

特記すべきこと：FoMのウェブサイトのトピックには以下のようなものがある：「香料とは何か?」「香料は健康に問題を起すか?」、「なぜ香料は人の健康に悪影響を及ぼすのか?」「無香料の環境を推進するためにはどうしたらよいか?」、「香料入り製品の代わりに使用できる無香料製品」関連する5ページのPDFファイル「無香料プログラム文書」<https://www.med.mun.ca/getattachment/91f2a62c-c439-466a-b314-52e124f68ec6/Scent-Free-Program-Document-MUN-FoM.pdf.aspx> には3つのテーマがある。「概要」「医学部の無香料プログラムの目的」「無香料プログラムガイドライン」WEBサイトにはさらなる情報への3つの外部リンクがある。

無香料ポリシーURL (2018年8月17日アクセス)

<http://extension.missouri.edu/staff/diversity-fragrance.aspx#gsc.tab=0>

対象者：影響を受ける全ての人という意味合い

内容：「無香料環境は何故必要なのか：我々の組織のゴールは効率よく学んだり働いたりすることができる環境を確かなものにするにありま。時々教室やオフィスを「無香料」にしてほしいという要望を聞きます。我々の職場で勤務、または課程で学んでいる学生の中には化学物質過敏症(MCS)と診断された人たちがいますが、MCSは米国障害者法の身体障害のリストに入っています。彼らは私たちが日常身につける多種類の製品に敏感で、それらの製品は彼らに深刻な医療的困難をもたらすおそれがあります。そのような困難には片頭痛、吐き気、胸が締め付けられる感覚、咳、発声が不能になる、喉の不調、鼻炎などが含まれ、症状の中には生命に危険を及ぼすものもあります。このような問題を起す製品には、香水、アフターシェーブローション、ヘアスプレー、コロン、ボディスプレーなどが含まれ、また日常使われる強い香料入りのシャンプー、ローションや入浴用製品などは悲惨な身体への反応、病態を引き起すおそれがあります。これらの人たちがそのような反応を起すのは、製品に含まれる香料が化学物質から作られていることにより、それらの物質は石油由来の化学物質または有毒な化学物質で、発がん性物質です。この新しいポリシーに柔軟に、また誠意をもって取り組んでいただき感謝します。米国では人口の16%がこの化学物質過敏症をもっており、様々な体を蝕む症状に苦しむ人の数は増え続けています。」

主な場所：米国ミズーリ州 ミズーリ大学公開講座の193の会場全て。州にある114の郡すべてとセントルイス市。

時期：記述なし

理由：我々の組織のゴールは効率よく学んだり働いたりすることができる環境を確かなものにするにありま。—我々の職場で勤務、または課程で学んでいる学生の中には化学物質過敏症(MCS)と診断された人たちがいますが、MCSは米国障害者法の身体障害のリストに入っています。

運用方法：自主的な順守：「この新しいポリシーに柔軟、また誠意をもって取り組んでいただき感謝します。」

特記すべきこと：MU公開講座のWEBサイトには追加情報のための2つの外部リンクがある：WEBページには無香料ポリシーのプログラムと会議のためのサンプルレターがある。その中の記述：「私たちは今度の郡の学習計画ディレクター会議を無香料にして欲しいという要望を受け取っている。そのため、私たちは会議に香水、アフターシェーブローション、ヘアスプレー、コロン、ボディスプレーをつけてくることを控えるようお願いする。また、激しい身体の反応、病態を引き起す可能性があるため、強い香料を含むシャンプー、デオドラント、ローション、入浴用品を使う場合には注意することをお願いする。あなたにはそれらの製品の多くを使用する必要があることを認識しているが、会議参加者全てのために私たちが健康的な環境を提供することため、出来る限りの協力をしていただくようお願いする。」

16	<p>教育機関>大学>研究所>米国、バージニア州、ブラックスバーグ バージニア工科大学 言語・カルチャー研究所(LCI)</p> <p>無香料ポリシーURL (2018年8月17日アクセス) https://lci.vt.edu/Programs/IntensiveEnglish/student-handbook/health-and-safety.html</p> <p>(2021年2月5日アクセス) https://lci.vt.edu/handbook/program-rules.html</p> <p>対象者：研究所すべての教員、学生</p> <p>内容：「無香料ポリシー：研究所は、バージニア工科大学の香料入り製品に関する無香料ポリシーに従う。我々は全ての研究所の教員、学生に、アレルギー反応や呼吸器の問題を起こすコミュニティのメンバーのために強い香りのついた香水、ローション、ヘアスプレー、デオドラント他のパーソナルケア製品を控えるようお願いする。」</p> <p>主な場所：バージニア工科大学言語・カルチャー研究所 米国バージニア州 モンゴメリー郡(840 University City Blvd., Suite 2, Blacksburg, Virginia 24061 USA)</p> <p>時期：記述なし</p> <p>理由：「アレルギー反応や呼吸器の問題を起こすコミュニティのメンバーのために」</p> <p>運用方法：自主的な順守：「我々は全ての研究所の教員、学生に、アレルギー反応や呼吸器の問題を起こすコミュニティのメンバーのために強い香りのついた香水、ローション、ヘアスプレー、デオドラント他のパーソナルケア製品を控えるようお願いする。」</p>
----	---

17	<p>教育機関>大学>大学のオフィス>米国、コロラド州、ボルダー ボルダー大学 情報工学オフィス(OIT)</p> <p>無香料ポリシーURL (2018年8月19日アクセス) https://oit.colorado.edu/about-oit/locations/fragrance-free-initiative/resources; https://oit.colorado.edu/about-oit/locations/fragrance-free-initiative; https://oit.colorado.edu/about-oit/locations/fragrance-free-initiative/faq</p> <p>対象者：訪問者と従業員</p> <p>内容：「無香料への取り組み 概要：この取り組みの目的は、全ての人に快適な労働環境を提供するために、スタッフと訪問者に香料入りの製品使用を最低限にしてもらうよう勧めることである。香りつき製品の香料の化学物質は、他人に不快感、また深刻な健康被害を起こすおそれがある。我々は空気を共有している：建物の中で過ごす人の健康と安全を促進するために、訪問者と従業員は無香環境を保つことが勧められる。香料入りの製品に敏感な個人は、片頭痛、呼吸困難、吐き気、胸の締め付け感、咳、失声、喉の違和感、鼻炎などの深刻な健康被害を受けるおそれがあるので、建物に入る前、また滞在中には香料入りの製品を使うことを控えていただきますように。」</p> <p>主な場所：米国 コロラド州 ボルダー郡 コロラド大学 情報工学オフィス (Boulder, CO 80309 USA. Boulder County)</p> <p>時期：記述なし。WEBサイトの最終更新は2018年4月19日</p> <p>理由：「この取り組みの目的は、全ての人に快適な労働環境を提供するために、スタッフと訪問者に香料入りの製品使用を最低限にしてもらうよう勧めることである。」 「建物の中で過ごす人の健康と安全を促進するために」</p> <p>運用方法：自主的な順守：「建物に入る前、また滞在中には香料入りの製品を使うことを控えていただきますように。」</p> <p>OITの「無香料への取り組み」ページには以下の様な情報が含まれる。(1) 6分近い「フラグランスファイル」というタイトルのオリジナルビデオ (2) 5つの注目すべき事実 (3) 参考資料—5つの研究が示されている。(4) 内部リンク 「無香料—反則製品とその代替品」このページには5つのトピックがある：「無香料製品を選ぶためのヒント」「最も避けるべき香料化学物質」「避けるべき香料化学物質」「やや避けるべき香料化学物質」「比較的安全な香料化学物質」。「無香料の参考資料」ページには、「役に立つWEBサイト」リンク集及び学生がIDとパスワードでアクセスできる「情報説明会」ビデオへのリンクがある。「無香料FAQページには、8つの問題が掲載されている。例：「食物や花粉にアレルギーがある人は知っているが、香料にアレルギーのある人に会ったことがない」、「自分が使っている香料入り製品について問われたら何が起こるのか」「自分が香料化学物質に敏感さを持っていたらどうしたらいいのか」</p>
	<p>出典：Analysis of Policies for "Ten Questions concerning Fragrance-Free Policies and Indoor Built Environments" by Anne Steinemann A. シュタインマン博士の「10の室内環境と無香料ポリシーについての問題」別表Aの無香料ポリシー例より抜粋 https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0360132319302148</p>
	<p>訳注：香害の原因として洗濯用品があまり記載されていない理由としては、日本で市販されている超残香性の柔軟剤・合成洗剤が米国ブランドとしてはほとんど市販されていないこと、また製品やブランド名が同じでも日本向けと北米向けでは成分が異なる可能性があることが考えられる。</p>